

「福祉の仕事」出前講座

平成30年7月6日（金）

場 所：宇土中学校 教室

参加者：熊本県立宇土中学校（2年生）80名

講 師：特別養護老人ホーム 照古苑 奥村 陽太さん

指定障害者支援施設 宇城学園 横川 俊治さん

保育園 ひかり保育園 古閑 絵里香さん



7月6日(金)、宇土中学校で2年生80人を対象に出前講座を行いました。初めに、福祉人材・研修センターから講師紹介等を行い、その後、特別養護老人ホームの生活相談員をしている奥村さん、障害者支援施設のサービス管理責任者である横川さん、ひかり保育園の保育士古閑さんから、それぞれの職場での経験をもとに、仕事でのやりがいや心がけている事などをお話いただきました。



〔奥村さん〕 人の役に立つ仕事をしたいと思い、この仕事につきました。経験を積み、信頼やコミュニケーションも取れるようになり、4月から生活相談員をしています。ご利用者様の話を聞いて、他のスタッフに伝える架け橋になりたいと思っています。福祉の資格は充実しているので、取得すれば障害分野や保育分野へも視野を広げることが出来ます。少しでも興味があればいつでも尋ねてきてください。

〔横川さん〕 宇城学園の理念は「地域の中で その人らしく 生き生きと」。障がいをもっているけど明るく、自分らしく生き生きと過ごせるようにとの思いがあります。

私は、人と直接関わる仕事に就きたいと思い、この仕事に就きました。利用者さんが出来ないことが出来るようになり、今まで見たこともないような表情を見せてくれたりする時、役に立っていることに実感があり、喜び、悲しみなど共有することが出来ます。この仕事につけて良かったと思います。



〔古閑さん〕 保育士は年齢にあった保育をしていくことが大切です。赤ちゃんクラスでは1:1で愛情を注ぐことが大切な時期。2・3歳児は自己主張が

芽生え、自分のしたいことをさせることが大事。4歳児はようやく相手のことを聞入れるようになり、5歳児は心も体も成長し、色々なことを繰り広げようになります。保育士になってから学ぶ事が多く、夢がかなったではなく、どういう保育士になりたいか、そこが問われていると思っています。